

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900267号
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	グループホーム さつま苑
訪問調査日	平成 22 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 22 年 5 月 14 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900267号		
法人名	有限会社 さつま福祉会		
事業所名	グループホーム さつま苑		
所在地	鹿児島県伊佐市大口針持1235番地8 (電話) 0995-25-2000		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年5月14日

## 【情報提供票より】(22年2月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤7人 非常勤12人	常勤換算16人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての		1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

## (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺田病院	下田医院	たけ歯科
---------	------	------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市郊外の幹線道路沿いに、温泉施設や民宿と同敷地内にある。「この家で、互いにくつろぎ、互いにやすらぎ、地域とふれあいのある暮らし」の理念にそって、食事は美味しく食べてもらい、風呂は温泉でゆっくりとくつろいでもらい、地域の子供達や高齢者などとの交流も大切にしている。日々、体操やレクリエーションなどを楽しみながら、入居者と職員がお互いに家族のように支え合い、その人らしく過ごせるよう、安心のある暮らしを支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みについては、研修計画を立て、外部研修等に取り組んでいるが、新人研修などの勉強会の実施はこれからである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価の意義やねらいについて話し合い、全職員で自己評価に取り組み、具体的な改善点を話し合い、サービスの質向上に活かす取組を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は、家族や地域住民代表や行政の参加を得て、事業所の取り組みや課題について話し合い、サービス向上に活かしている。災害に対する地域の協力も呼びかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項に相談苦情の窓口について説明している。面会時や運営推進会議等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。意見や要望は職員会議等で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学校や保育園の学習発表会などに参加したり、高齢者をホームの行事に招待するなど地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い、地域とふれあいのあるその人らしい暮らしを支えるサービスとして事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや職員会議で理念について話し合い、理念に添ったケアを実践するよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の高齢者をホームの行事に招待したり、地域の小学校の学習発表会に出かけるなど、老人会や小学生との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は自己評価の意義やねらいについて話し合い、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質向上に活かす努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はホームの状況や行事の報告の他、委員から多くの意見が出て、意見の中には職員へのねぎらいの言葉等もあり、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より電話等でホームの状況報告や課題解決のための相談を行っており、情報を共有して、共にサービス向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話等でホームでの様子や状態について話したり、現金出納帳のコピーを請求書送付時に同封して報告している。定期的にホーム便り等を作成し、家族にわかりやすくホームの行事や利用者の様子など報告していく取り組みを予定している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談窓口を明記し、入居時に説明したり、面会時など日頃から意見や要望を聞くよう努めている。運営推進会議にも家族の参加を呼びかけ、意見を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの職員が対応する事が大切であると認識し、異動や離職を最小限に抑える努力をしている。やむを得ない場合は利用者のダメージに配慮した取り組みをしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は段階に応じて研修に参加して、参加者は研修報告を行っている。	○	新人研修やパート職員を含めた勉強会などを実施して、サービスの質向上に向けた研修の機会を確保する事が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加し、学習会や交流会に参加しており、活動をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホームの見学を勧めたり、自宅を訪問し、馴染みの関係を作り、安心して入居してもらうよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として、また家族として「互いにくつろぎ、互いにやすらぎ」の理念に添って、声かけや場面作りに努め、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ゆっくり話を聞きながら、思いや意向を把握するよう努めている。家族と面会時に話し、本人の思いや意向を尊重するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れ、毎月のケア会議で話し合い、職員や関係者の意見やアイデアが反映された介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、モニタリングを実施し計画を見直し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と相談し、通院介助や買い物支援・墓参り・自宅訪問など、多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や・家族の希望する入居前からのかかりつけ医の受診を大切にしている。往診もあり適切な受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況変化時には、家族と話し合い家族の意向を尊重し、主治医・職員で会議し対応している状況である。	○	重度化や終末期に向けて、事業所が対応できる支援方法や方針を全員で共有する事が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重し、認知症による言動や行動も個性として受け入れて対応している。プライバシーを傷つけるような声かけ等配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に1日の流れはあるが、本人の体調や希望・意向を尊重し、入居者のペースに添って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と職員で相談して決め、野菜を採りに行ったり・下ごしらえ・味見・テーブル拭き・お膳の片付けなど、一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聴いて、入浴を楽しめるよう支援している。温泉なので好きな時に入浴ができるし、柚湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操やレクリエーション・掃除など、役割を持って、張り合いや喜びになるよう支援している。花見や外食などの気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の状態に配慮しながら、ホームに閉じこもらないよう散歩やドライブなど支援している。玄関先にベンチを置いて日光浴やお茶を楽しむ事もある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに、外出の様子が見えたらさりげなく声かけし、一緒について散歩するなど安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力して、運営推進員にも参加を呼びかけ、年2回避難訓練や消火訓練を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分や食事の摂取量についてチェックし記録している。毎月体重測定を実施し、栄養バランスに配慮した献立で、美味しく食べてもらう工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からリビングの様子がわかり、テーブルやテレビが配置され、ホームのあちこちに季節の花が生けてあり、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳やフローリングの部屋があり、使い慣れたタンスやテレビ・寝具など持ち込み、入居者が居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。